

西脇市立西脇病院経営基本計画

— 実施計画(案) —

令和5年8月

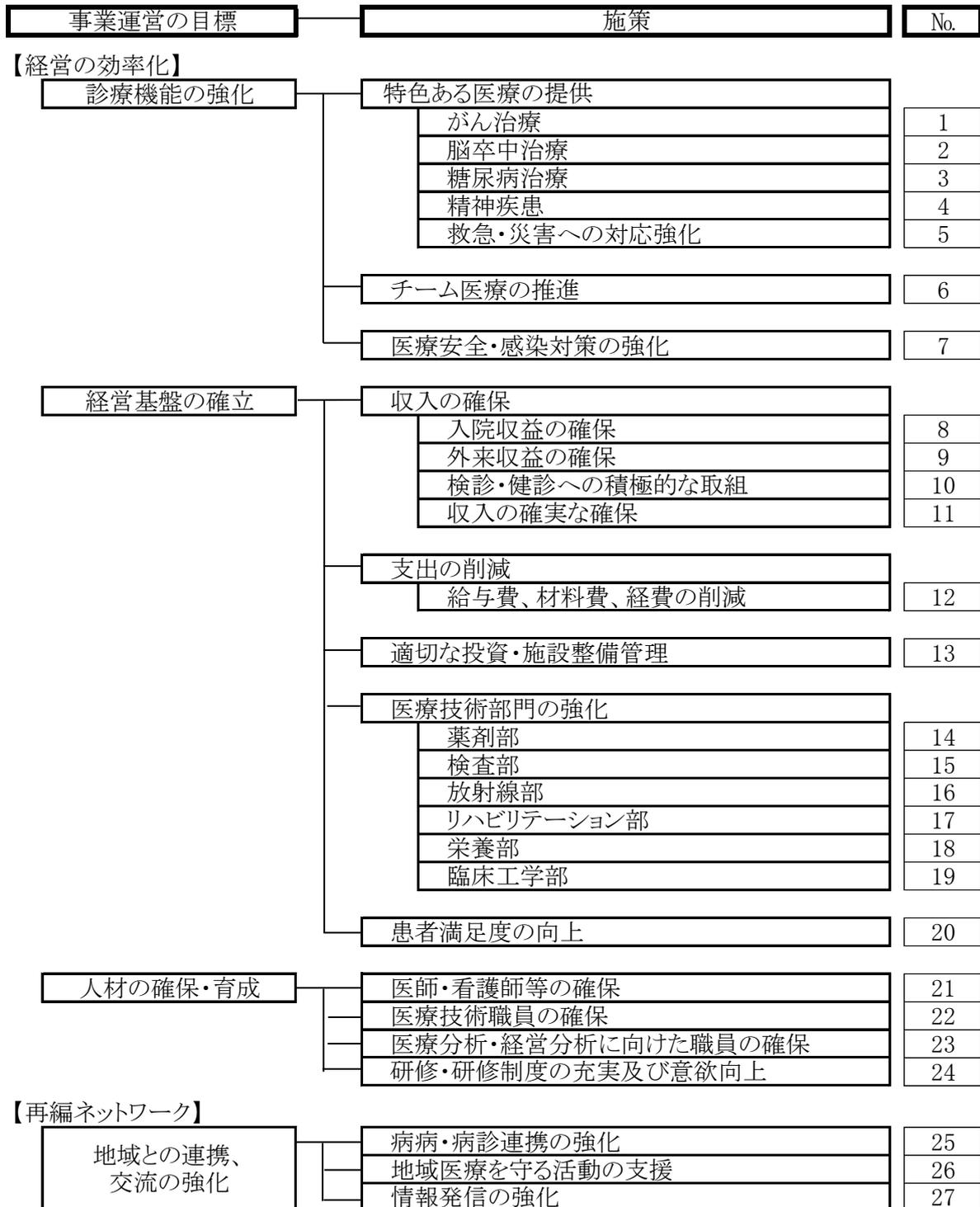
1 策定の趣旨

近隣病院の統合や医療(介護)体制の改革など、西脇病院を取り巻く環境が変化するなか、将来を見据えつつ令和3年度からの5年間についての経営計画を策定し、今後の政策の展開方針を示しています。令和7年度を目標とする基本計画に掲げる政策・施策の推進を図るため、具体的に取り組む事業内容や活動方針を体系的に取りまとめ、実施計画を策定しました。

2 実施計画の期間

令和3年度から令和7年度までの5年間とします。毎年度、前年度の実績を踏まえ、当該年度の具体的な計画と数値目標を設定した実施計画を策定します。

3 実施計画の体系図



No.1 特色ある医療の提供 がん治療

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
がん診療連携拠点病院の継続 集学的治療及び緩和ケア提供体制の整備、標準的治療等の提供を行うとともに、地域医療機関等との連携を構築する。	拠点要件の確認	拠点病院更新。拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認
緩和ケア食の構築 化学療法や放射線療法中の患者、ターミナルケアの患者に対し、患者のニーズに応じた食事提供が行えるよう食種の構築を目指す。	緩和ケア食の立案、導入に向けた給食委託業者・病院スタッフとの調整	委託業者の更新があり、未実施	緩和ケア食が導入できるよう、食種を整理する		
緩和ケアチームへの協力 緩和ケアチームが発動となった患者に対し、食事・栄養面からサポートを行う。診断・治療早期からの介入をすすめる。社会生活を維持するために社会保険労務士による相談の場を提供する。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。
病診連携の強化 がん地域連携クリニカルパスを増やし、病診連携の強化を図る。	パス件数：17件	パス件数：11件	パス件数：11件	パス件数：11件	パス件数：11件
人間ドックのオプション検査等 人間ドックのオプション検査化に伴い、PR強化による受診者数の増加を図る。	健診システムの更新	健診システムの更新	ホームページ・パンフレットの刷新	ホームページ・パンフレットの刷新	ホームページ・パンフレットの刷新
がん関連認定看護師等の取得 緩和ケア、疼痛緩和などがん関連の看護ケアの充実を図り、がん診療拠点病院として積極的ながん治療を行う。資格取得者、経験者の再雇用により即戦力の強化。			資格取得者1名雇用	資格取得者1名雇用	資格取得者1名雇用
専門的ながん治療の提供 専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。放射線治療の推奨。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
新入院がん患者数	(人)	1,068	1,092	1,100	1,100	1,100
放射線治療患者数	(人)	90	137	150	150	150
放射線治療件数	(人)	1,547	2,230	2,500	2,500	2,500
外来化学療法延患者数	(人)	1,242	1,418	1,500	1,500	1,500
がん患者リハビリ単位数	(件)	239	128	150	170	170
子宮がん検診	(人)	419	401	450	450	450
肺がん検診	(人)	153	106	150	150	150
乳がん検診	(人)	774	775	790	790	790
ABC検査	(人)	61	38	70	70	70
CT件数	(件)	16,677	15,617	16,000	16,000	16,000
MRI件数	(件)	5,389	5,581	5,750	5,750	5,750
RI件数	(件)	512	462	525	525	525
マンモ件数	(件)	1,417	1,410	1,450	1,450	1,450

No.2 特色ある医療の提供 脳卒中治療

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
クリニカルパスの効果的な運用 連携医療機関の回復期リハビリ病棟、療養型病棟への有効活用を行う。	連携件数 101件	連携件数 100件	連携件数80 件	連携件数80 件	連携件数80 件
3.0テスラMRIの活用 北播磨圏域の医療拠点病院として、脳血管疾患の機能強化を図る。	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働
専門医の育成 脳卒中の専門医を育成する。					
脳卒中認定看護師の育成 脳卒中リハビリテーション認定看護師を育成する。			育成と院内 整備	育成と院内 整備	育成と院内 整備
摂食嚥下障害認定看護師の育成 摂食嚥下障害看護認定看護師を育成する。			育成と院内 整備	育成と院内 整備	育成と院内 整備
脳卒中の専門的治療の提供 脳卒中の専門的治療を提供する。	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
パスによる紹介件数	(件)	104	82	80	80	80
脳卒中(脳外科)入院件数	(件)	368	349	400	400	400
脳血管治療件数	(件)	126	96	150	150	150

No.3 特色ある医療の提供 糖尿病治療

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
糖尿病教室 食に関する知識の普及に努める。	糖尿病レター の作成、指導 媒体の作成	糖尿病レ ターの作成	年1回開催、 糖尿病レ ターの作成	年1回開催、 糖尿病レ ターの作成	年1回開催、 糖尿病レ ターの作成
糖尿病患者への栄養指導 入院患者:適切な食事提供 栄養指導依頼提案 外来患者:継続的な栄養指導	実施	入院時から外 来への継続指 導を主治医へ 提案。術前の 血糖管理、栄 養指導を実 施。	入院時から外 来への継続指 導を主治医へ 提案。術前の 栄養介入を継 続し、術前血 糖管理に努め る。	入院時から外 来への継続指 導を主治医へ 提案。術前の 栄養介入を継 続し、術前血 糖管理に努め る。	入院時から外 来への継続指 導を主治医へ 提案。術前の 栄養介入を継 続し、術前血 糖管理に努め る。
専門知識を持つスタッフの育成 糖尿病に関する認定栄養士を育成する。		兵庫県糖尿 病療養指導 士1名更新	日本糖尿病 療養指導士 /兵庫県糖 尿病療養指 導士の育成	日本糖尿病 療養指導士 /兵庫県糖 尿病療養指 導士の育成	日本糖尿病 療養指導士 /兵庫県糖 尿病療養指 導士の育成
糖尿病認定看護師の育成 糖尿病認定看護師を育成する。			育成と院内 整備	育成と院内 整備	育成と院内 整備
血液浄化件数の維持 積極的な患者の受け入れを行い、安心安全な透析医療の 充実を図る。また診療報酬の漏れがないように確実に取得 していく。	個人用透析 装置の導入 に向けての 取組みを開 始した。	個人用透析 装置の運用 をコロナ病 棟で開始し た。また透析 における診 療報酬報酬 の見直しを 図った。	安心安全な 透析医療の 充実を図る。	安心安全な 透析医療の 充実を図る。	安心安全な 透析医療の 充実を図る。
各科の診療ニーズに対応した技術提供 各科の診療ニーズに対応し、オンコールによる24時間体 制で業務に取り組む。	感染対策を 始め、各科 の診療ニー ズ対応を行 った。	個人透析を 始め、各科 の診療ニー ズに対応し た。	各科の診療 ニーズに対 応する。	各科の診療 ニーズに対 応する。	各科の診療 ニーズに対 応する。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
入院血液浄化件数	(件)	968	879	900	900	900
外来血液浄化件数	(件)	5,679	6,115	6,000	6,000	6,000
栄養指導件数	(件)	2,263	2,026	2,000	2,000	2,000
NST介入件数 (栄養サポートチーム)	(件)	1,305	1,134	1,200	1,200	1,200

No.4 特色ある医療の提供 精神疾患

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
認知症疾患センターの指定 認知症疾患における鑑別診断、地域における医療機関等の紹介、問題行動への対応についての相談受付などを実施する。	鑑別診断件数102	鑑別診断件数150	鑑別診断件数150	鑑別診断件数150	鑑別診断件数150
精神科リエゾンチーム加算の算定 精神科リエゾンチーム加算の算定に向けたチームの結成を進める。	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保
特定研修施設の指定 リエゾン専門医を目指す特定研修施設の指定を受け、スタッフを育成する。					
がん患者の心のケア(サイコオンコロジーの領域)					

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
入院精神療法件数	(件)	448	348	400	400	400

No.5 特色ある医療の提供
救急・災害への対応強化

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
災害備蓄品の確保 災害備蓄品(薬品、材料、食品)を3日分確保する。必要な数量・消費期限を定数管理し、更新等による経費負担を平準化する。	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新
DMATチームの充実 DMAT隊員の強化(人数増員、訓練・研修会参加)を図り、災害拠点病院として積極的に災害派遣を行う。	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成
医療救護班の充実 医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
災害訓練への参加	(件)	2	1	2	3	3
災害訓練の実施	(件)	1	1	1	1	1
救急搬送件数	(件)	3,129	3,148	3,200	3,200	3,200

No.6 チーム医療の推進

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
薬剤師の入院棟配置 入院時における薬剤師の役割の拡大、医師、看護師の負担軽減とともに、更なる医療の質の向上を図る。	人員増と人材育成を推進。担当を複数人とし、業務の空白をなくし充実を図る。	業務の維持、及び拡大を図るため、人材の育成を推進し、また業務の空白化の回避と充実を図る。	人員増を見込めない中、引き続き再雇用者には業務を継続いただく。また業務の効率化を推進し、まずは現在の業務の維持を図る。さらに人員の確保と育成を推進し、業務の安定と拡大を目指す。	再雇用者3名の年限ともあり、人員の確保と育成に注力し、業務量の維持・推進を図る。再雇用者の代わりの新たな病棟担当者の育成着手。	再雇用者3名の代わりの人員確保と育成を推進し、最低限現在の業務量を維持し、その上で病棟業務の効率化と拡充を目指す。
周術期等の口腔機能の管理 周術期に専門的な口腔管理を行うことで、呼吸器系合併症の軽減や抗がん剤、放射線治療による粘膜病変を軽減する。手術周期、高齢者の誤嚥性肺炎の防止などを目的とした活動を推進する。					
糖尿病教育チーム活動の推進 糖尿病透析予防指導による生活習慣病対策を推進する。			指導のための人員確保	指導のための人員確保	指導のための人員確保
認定看護師の資格取得支援 より高い医療サービスを実現させるため、優秀なスタッフの育成に努めるとともに、認定取得を積極的に支援する。	1人	1人	1人	1人	1人
臨床研修指導医の資格取得 厚労省が認定する臨床研修指導医講習を計画的に受講し、指導医数の充実を図る。	2人	0人	2人	2人	2人
地域看護力の向上 地域看護の質向上と担保に向けた看護教育研修センターでの、充実した研修を提供する。年間12回以上の開催を目指す。	コロナ禍でありオンライン研修準備・調整のみ	13回	13回 認定看護師による新人研修と共に、より専門性高い研修の開催を目指すと共に院外へ発信する。	13回 認定看護師による新人研修と共に、より専門性高い研修の開催を目指すと共に院外へ発信する。	13回 認定看護師による新人研修と共に、より専門性高い研修の開催を目指すと共に院外へ発信する。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
NST介入件数【再掲】 (栄養サポートチーム)	(件)	1,305	1,134	1,200	1,200	1,200
緩和ケア介入件数	(件)	53	50	50	50	50
褥瘡対策チーム介入件数	(件)	313	360	-	-	-
VAP介入件数 (人工呼吸器関連肺炎対策チーム)	(件)	150	106	-	-	-
ICT介入件数 (感染制御チーム)	(件)	1,052	1,215	-	-	-
認定看護師	(人)	1	0	1	1	1
臨床研修指導医	(人)	2	0	2	2	2

No.7 医療安全・感染対策の強化

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
職員の感染予防 病院に勤務する職員にB型肝炎ワクチンやインフルエンザワクチンを予防接種することにより、職員への感染を未然に防ぐ。	新規採用職員、前年度ワクチン接種者を実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者を実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者を実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者を実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者を実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施
医療安全文化の醸成 医療安全研修会を定期的に開催するとともに、インシデント報告の収集、報告数増加へ取組み、分析、再発防止策の策定を行い、安心して安全な医療の提供に努める。	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。	インシデント報告の分析と再発防止策の策定。報告する文化の醸成。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
インシデント報告件数	(件)	1,033	1,103	1,420	1,420	1,420
院内医療安全研修会開催件数	(件)	2	2	2	2	2
院内感染対策研修会開催件数	(件)	2	2	4	4	4
感染対策委員会開催件数	(回)	13	12	12	12	12
入院後鼻腔MRSAスクリーニング陽性率	(%)	2.0	2.4	2.0	2.0	2.0
VAP介入件数(再掲) (人工呼吸器関連肺炎対策チーム)	(件)	150	106	-	-	-

No.8 収入の確保 入院収益の確保

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
7対1入院基本料の維持継続 看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する。	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する
診療報酬改定の対策 2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する。	2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する	診療報酬改定	2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する	診療報酬改定	2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する
DPC分析 DPC分析データに基づく病院指標の作成と公開を行う。	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
1日平均入院患者数	(人)	268.2	257.7	283.0	290.0	290.0
病床稼働率	(%)	88.2	84.8	95.6	90.6	90.6
1人1日入院診療単価	(円)	53,275	54,022	55,555	55,600	55,600

No.9 収入の確保 外来収益の確保

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
救急患者の積極的な受入れ 消防からの受入れ体制(受入時間等)等を強化する。	消防からの受入れ体制(受入時間等)等を強化する。	消防からの受入れ体制(受入時間等)等を強化する。	消防からの受入れ体制(受入時間等)等を強化する。	消防からの受入れ体制(受入時間等)等を強化する。	消防からの受入れ体制(受入時間等)等を強化する。
専門・特殊外来の設置 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者のニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。	高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
1日平均外来患者数	(人)	453.6	477.1	483.0	490.0	490.0
1人1日外来診療単価	(円)	16,255	15,780	16,100	16,100	16,100
救急搬送件数(再掲)	(件)	3,129	3,148	3,200	3,200	3,200

No.10 収入の確保 検診・健診への積極的な取組

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
人間ドックのレベルアップ 受診者が安心して健診を受けられるよう人間ドック健診施設機能評価の認定取得を目指す。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。
オプション検査の充実 必要な健診が受けられるよう検査内容の充実を目指す。	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする
利便性の向上(受診枠の見直し) 使用する医療機器、検査担当技師等を増やし、受診枠の拡大に向けた見直しを計画する。	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
成人病検診	(人)	980	1,019	1,050	1,050	1050
一泊人間ドック	(人)	38	38	50	50	50
日帰り人間ドック	(人)	514	497	520	520	520
脳ドック	(人)	137	134	150	150	150
乳腺ドック	(人)	13	17	25	25	25
乳児・新生児健診	(人)	264	185	260	260	260
妊婦健診	(人)	2,026	1,637	2,000	2,000	2,000

No.11 収入の確保
収入の確実な確保

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
職員夜間訪問徴収の実施 定期的に夜間訪問により徴収する。	夜間徴収・ 昼間徴収・ 督促依頼	夜間徴収・ 昼間徴収・ 督促依頼	夜間徴収・ 昼間徴収・ 督促依頼	夜間徴収・ 昼間徴収・ 督促依頼	夜間徴収・ 昼間徴収・ 督促依頼
院内診療報酬研修会の実施 院外講師及び医事課職員による職員研修会を実施する。	診療報酬改定 に向けた情報 提供。レセプト 査定・返戻の フィードバック	レセプト査 定・返戻の フィードバッ ク	診療報酬改 定に向けた 情報提供	レセプト査 定・返戻の フィードバッ ク	診療報酬改 定に向けた 情報提供

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
過年度個人未収金	(千円)	36,231	39,917	39,000	38,000	37,000
院内診療報酬研修会開催件数	(回)	3	2	2	2	2

No.12 支出の削減
給与費、材料費、経費の削減

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
材料費(薬品費)比率の削減 見積り合わせの手法を協議し、削減に努める。					→
材料費(診療材料費)比率の削減 SPDの効率化を進める。					→
経費比率の削減 光熱水費等、より効率的な削減・節減に努める。					→
給与費比率の削減 収益効果の高い人材を確保する。					→

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
材料費比率(医業収益対比)	(%)	24.5	25.3	22.5	21.8	21.5
経費比率(医業収益対比)	(%)	21.6	22.6	23.2	21.2	21.1
給与費比率(医業収益対比)	(%)	63.8	64.1	59.0	58.1	58.4

No.13 適切な投資・施設整備管理

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
電子カルテシステムの更新 現システムの問題点を洗い出すとともに各社新機種の性能比較などを十分に行い、よりよい電子カルテシステム環境の構築を目指す。	富士通との定例会を行う	富士通との定例会を行う	定例会を行う 更新	定例会を行う	定例会を行う
医療機器整備計画の策定 専門性の高い高度医療機器や患者ニーズの高い各種検査機器を計画的に導入することにより、よりよい医療を提供する。					
資産の効率的な運用 利用頻度の少ない一戸建て医師公舎の運用を検討する。			空き家バンクに登録		

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
機器整備金額(システム)	千円	116,217	314,678	1,316,118	150,000	150,000
機器整備金額(機器)	千円					

No.14 医療技術部門の強化 薬剤部

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
薬剤師の入院棟配置【再掲】 入院時における薬剤師の役割の拡大、医師、看護師の負担軽減とともに、更なる医療の質の向上を図る。	人員増と人材育成を推進。担当を複数人とし、業務の空白化をなくし充実を図ることを目指したが、人員増とはならず。	業務の維持、及び拡大を図るため、人材の育成を推進し、また業務の空白化の回避と充実を目指す	人員増を見込めない中、引き続き再雇用者には業務を継続いただく。また業務の効率化を推進し、まずは現在の業務の維持を図る。さらに人員の確保と育成を推進し、業務の安定と拡大を目指す	再雇用者3名の年限となることもあり、人員の確保と育成に注力し、業務量の維持・推進を図る。	人員の確保と育成の推進を図り、病棟業務の効率化と算定できる業務の拡充を目指す。
抗がん剤調製の100%実施の維持 急激な件数増加に対処するため、休日対応も含め、調製人員の増強を図る。	確かな技術を継承できる調製者の育成。抗がん剤による汚染度合いの調査を実施し、評価を行った。	確かな技術を継承できる調製者の育成。殺細胞性抗がん剤調製時のクローズドシステム導入と全館的な抗がん剤の被曝低減策を実施し、評価を行った。	確かな技術を安定して使えるよう調製者のスキルアップを目指す。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。
後発医薬品の採用促進 数量ベースでの増加を目指すため、後発医薬品の採用を進める、高額医薬品については後発医薬品が発売されれば変更を行う。	後発品使用体制加算1である85%以上を維持できた	後発品使用体制加算2の要件である85%以上を堅持し、加算1取得のため90%以上を4か月維持できた。	後発品使用体制加算1の要件である90%以上を堅持し、継続して加算1取得を目指す。	後発品使用体制加算1の要件である90%以上を堅持し、継続して加算1取得を目指す。	後発品使用体制加算1の要件である90%以上を堅持し、継続して加算1取得を目指す。
医薬品情報等の情報提供強化 インtranetを利用した情報発信に加え、メール等による発信にも取り組む。	NeWS等による医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また研修会・説明会等を企画し実施した。	NeWS等による医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また研修会・説明会等を企画し実施した。	NeWSまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品情報等を発信。また研修会・説明会等を企画・実施する。	NeWSまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品情報等を発信。また研修会・説明会等を企画・実施する。	NeWSまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品情報等を発信。また研修会・説明会等を企画・実施する。
ポリファーマシー対策 薬物有害事象のリスク低下や服薬アドヒアランス向上、薬剤費の削減を目指す。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用その他において薬剤の適正使用に関与できた。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用その他において薬剤の適正使用に関与できた。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用におけるリスク回避に介入する。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用におけるリスク回避に介入する。	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用におけるリスク回避に介入する。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
ハイリスク指導件数	(件)	5,483	5,098	5,000	5,000	5,000
その他指導件数	(件)	5,477	4,714	6,000	6,000	6,000
薬剤師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	17	18	20	20	20

No.15 医療技術部門の強化 検査部

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
検査技師の人材確保・育成とスキルアップ 技師確保と育成、技師の専門性あるスキルアップ。	新人技師一人追加あるが、退職者一人出たため目標技師数に達していない。正規職員が一人会計年度職員になったため当直やLAMP検査対応技師が減った。	新人技師一人増加と人材育成。再雇用者の業務継続。エコー検査士、認定輸血検査士ほか認定資格の取得。エコー技師、細胞検査士のスキルアップ。骨髄検査対応技師の充実。	新人技師の育成。各種資格の取得。細胞検査士のスキルアップを行い迅速細胞診に備える。エコー担当者の養成。退職予定者からのスムーズな業務引き継ぎ。	各種資格の取得。細胞検査士のスキルアップを行い迅速細胞診に備える。エコー担当者の養成。退職予定者からのスムーズな業務引き継ぎ。	各種資格の取得。エコー担当者の養成。ベテラン退職者からのスムーズな業務引き継ぎ。聴力検査の担当者を増やす。
各科からの検査要求対応 各種、臨床からの要求ある検査への対応。	Lamp検査を夜間・休日にも対応。骨髄検査の当日結果報告。手術別出血量と輸血率算出、FFP在庫ゼロ、製剤の期限を院内に周知させ廃棄率軽減対策。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を夜間・休日にも実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。B-2MG検査開始	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を休日にも実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。迅速細胞診に積極的に対応。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を休日にも実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。迅速細胞診に積極的に対応。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を夜間・休日にも実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。迅速細胞診に積極的に対応。
院内チーム医療への参画と協力 チーム医療：感染管理、栄養サポート、糖尿病療法指導等への参画と協力。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。肝炎ウイルス陽性者を毎月報告。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GAST・NSTへの参画と協力。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
超音波検査数	(件)	9,265	8,798	9,100	9,150	9,150
肺機能検査数	(件)	1,662	1,642	1,680	1,690	1,690
脳波検査数	(件)	182	180	200	200	205
ABI検査数	(件)	577	501	520	550	550
心電図検査数	(件)	8,842	8,991	9,000	9,050	9,050
臨床検査技師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	17	18	19	19	19

No.16 医療技術部門の強化 放射線部

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
3.0テスラMRIの運用 地域の医療機関との連携を強化し、院外からの受託件数を増やす。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコル見直しによる新しいアプリケーションへの取り組み。	撮影プロトコル見直しによる新しいアプリケーションへの取り組み。
スタッフの育成 認定資格の取得による技術力の向上を目指す。	モダリティー専任技師の育成。	新人技師の育成とモダリティー専任技師の育成。	認定資格取得によるモダリティー専任技師の育成。	新人技師の育成、認定資格取得によるモダリティー専任技師の育成。	認定資格取得によるモダリティー専任技師の育成。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
アンギオ件数	(件)	314	304	330	330	330
骨測定量件数	(件)	1,102	1,238	1,300	1,300	1,300
一般撮影系件数	(件)	22,959	22,921	23,500	23,500	23,500
CT 件数(再掲)	(件)	16,677	15,617	16,000	16,000	16,000
MRI 件数(再掲)	(件)	5,389	5,581	5,750	5,000	5,750
R I 件数(再掲)	(件)	512	462	525	525	525
マンモ件数(再掲)	(件)	1,417	1,410	1,450	1,450	1,450
放射線治療患者数(再掲)	(人)	90	137	150	150	150
放射線治療件数(再掲)	(件)	1,547	2,230	2,500	2,500	2,500
診療放射線技師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	14	15	17	17	17

No.17 医療技術部門の強化 リハビリテーション部

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
施設基準の維持 地域包括ケア病棟の施設基準であるリハビリ2単位以上を維持する。 回復期リハビリテーション病棟開設に伴う施設基準の充実を行う	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。
充実したリハビリの提供 1日1人取得目標単位数を18単位とする。	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位
リハビリ治療3連休の解消 継続的な入院リハビリ治療を充実する。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。
スタッフの育成 特に診療報酬に影響する資格取得に努める(例:骨粗鬆症マネージャー、リンパ浮腫複合的治療研修等。その他、当院のチーム医療に関連する糖尿病療養指導士、呼吸療法認定士、腎臓リハビリなどの資格取得を行ったり、当院リハビリ対象者に関連する自己研鑽に努める。	がんリハ研修会に参加、呼吸療法認定士、糖尿病療養指導士	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。
院内外に向けたリハビリ啓発活動(地域リハビリテーション活動の強化) 地域支援事業への職員派遣(フレイル予防訪問指導事業、住宅改修・福祉用具適正化事業、認知症初期集中支援チーム員会議、自立支援型地域ケア会議) 地域住民に向けた研修会の講師。 院内でのリハビリ関連の実技指導や勉強会開催。	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
脳血管疾患リハ単位数	(件)	27,529	34,394	36,700	40,000	40,000
廃用症候群リハ単位数	(件)	18,421	21,527	23,000	26,000	26,000
運動器リハ単位数	(件)	20,458	29,430	31,500	37,000	37,000
呼吸器リハ単位数	(件)	6,925	6,851	7,500	8,300	8,300
摂食療法リハ単位数	(件)	1,006	1,299	1,500	1,650	1,650
がん患者リハ単位数	(件)	254	128	150	170	170
理学療法士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	15	16	17	18	18
作業療法士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	7	8	10	12	12
言語聴覚士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	5	6	6	6	6

No.18 医療技術部門の強化
栄養部

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
専門知識を持つスタッフの育成・スキルアップ 研修会及び勉強会へ参加し、専門的技術の習得をめざす。糖尿病療養指導士、NST専門療法士、がん専門認定栄養士などの育成を行う。	NST専門療法士資格2名更新。がん専門病態栄養専門管理栄養士、兵庫県糖尿病療法士資格更新のための研修参加。	兵庫県糖尿病療養指導士更新研修参加。周術期、嚥下食、早期栄養介入について研修参加。	NST40時間研修への参加。各種研修への参加によりスキルアップを図る。	NST40時間研修への参加。各種研修への参加によりスキルアップを図る。	NST40時間研修への参加。各種研修への参加によりスキルアップを図る。
食事満足度の向上 食事満足度アンケートの実施により、嗜好に応じた食事内容の検討。院内基準の定期的な見直しにより、食事満足度の向上を図る。	アンケートを年2回実施。緩和ケア食の検討・導入、はなまるランチ・ドック食、分娩食のリニューアル検討・実施、糖尿病食の院内基準の見直し	アンケートを年2回実施。緩和ケア食の検討・導入、院内栄養基準の見直しを実施。	アンケートを年2回実施。嚥下に配慮した粥の構築。	アンケートを年2回実施。嚥下に配慮した粥の構築。	アンケートを年2回実施。各食種の見直し・検討
チーム医療への参画・協力 病棟担当制により、多職種との連携を強化し、患者サービス及び予防医療の普及をめざす。	管理栄養士数の維持により、病棟訪問を強化し、各チーム医療へ参加した。	病棟担当制の維持、各チーム医療へ参加した。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。各チームカンファレンス・回診に参加する。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。各チームカンファレンス・回診に参加する。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。各チームカンファレンス・回診に参加する。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
栄養指導件数	(件)	2,263	2,026	2,000	2,000	2,000
糖尿病教室	(回)	0	0	1	1	1
糖尿病透析予防指導管理料	(件)	73	18	36	36	36
NST介入件数 (栄養サポートチーム)	(件)	1,305	1,134	1,300	1,300	1,300
管理栄養士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	7	6	7	7	7

No.19 医療技術部門の強化 臨床工学部

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
スタッフの育成 各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。各科の臨床業務に必要な技術取得のため、学会・研修・勉強会へ参加する。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指した。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指した。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。
ME機器保守管理 安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。また透析機器も含めた定期的なメンテナンスによるME機器の保守点検費用の削減及びメーカーによる修理費用の削減を図る。各医療機器の保守管理技術・知識取得のため、メーカーによるメンテナンス講習に参加する。	病棟ラウンドを始め、院内の医療機器が安心安全に使用が出来るように努めた。	病棟ラウンドを始め、院内の医療機器が安心安全に使用が出来るように努めた。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。
各科の診療ニーズに対応した技術提供 血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っている。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行い、医師との信頼性の向上に努めた。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行い、医師との信頼性の向上に努めた。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っている。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っている。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っている。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
ペースメーカー件数	(件)	94	96	90	90	90
心臓カテーテル件数	(件)	69	52	70	70	70
入院透析件数(再掲)	(件)	968	879	900	900	900
外来透析件数(再掲)	(件)	5,679	6,115	6,000	6,000	6,000
臨床工学技士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	5	5	5	5	5

No.20 患者満足度の向上

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
意見箱の設置 意見箱を院内数か所に常設し、患者をはじめ来院者に意見や感想を記入いただき、医療サービスの改善に努める。	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上
患者アンケートの実施 1年に数回、入院・外来患者にアンケート記入に協力いただき、サービスの向上を目指す。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
患者アンケート実施回数	(回)	1	1	1	1	1
患者アンケートの回答数	(数)	468	532	600	600	600
患者アンケートによる改善事項	(数)	2	3	5	5	5

No.21 医師・看護師等の確保

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
医師公舎の改修 築年数、老朽度、必要数量を基に、適切な公舎維持を図り、働きやすい環境を整える。	維持継続	維持継続	長寿命化計画策定	長寿命化計画に基づき、環境を整える。	長寿命化計画に基づき、環境を整える。
医師確保 病院機能として必要な専門医等の確保を目指す。					
看護師確保 修学資金制度を継続して実施する。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。					
医師事務作業補助者の確保 配備により、医師の事務処理負担の軽減を図る。「医師事務作業補助体制加算30:1」を目指す。	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
医師数 (各年度3月末現在)	(人)	56	55	56	56	56
研修医数 (各年度3月末現在)	(人)	13	13	14	14	14
看護職員数 (各年度3月末現在)	(人)	268	255	273	273	274
奨学資金貸与者数	(人)	10	5	10	10	10
医師事務作業補助者数	(人)	8	6	11	11	11

No.22 医療技術職員の確保

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。					→
医療技術職員の確保 病院機能として必要な専門技術職員等の確保を目指す。 新型コロナウイルス感染対策やリハビリの機能の充実のため、薬剤、検査、リハビリ等必要な人員確保を目指す。	97人	105人	109人	109人	109人

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
診療放射線技師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	14	15	17	17	17
臨床検査技師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	17	18	19	19	19
理学療法士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	15	16	17	17	17
作業療法士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	7	8	10	10	10
言語聴覚士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	5	6	6	6	6
薬剤師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	17	18	20	20	20
管理栄養士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	7	6	7	7	7
臨床工学技士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	5	5	5	5	5
社会福祉士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	4	6	6	6	6
精神保健福祉士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	2	1	2	2	2

No.23 医療分析・経営分析に向けた職員の確保

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。					→
医療分析・経営分析に向けた職員の確保 病院機能として必要な医療・経営分析職員等の確保を目指す。					→
医療分析・経営分析 医療分析(EVE)の活用					→

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
診療情報管理士数(各年度3月末現在)	(人)	4	4	5	4	4
医事課専門職員数	(人)	2	2	2	2	2

No.24 研修・研修制度の充実及び意欲向上

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
院内研修 参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接 遇研修、交通安全研修などを実施する。	新型コロナ の影響により 交通安全研 修は中止	新型コロナ の影響により 交通安全研 修は中止	参加しやす い時間帯や 内容を配慮 しながら人 権研修や接 遇研修、交 通安全研修 などを実施 する。	参加しやす い時間帯や 内容を配慮 しながら人 権研修や接 遇研修、交 通安全研修 などを実施 する。	参加しやす い時間帯や 内容を配慮 しながら人 権研修や接 遇研修、交 通安全研修 などを実施 する。
院内・院外発表 院内発表会を定期的で開催し、成果発表の場を確保す る。また、機会があれば、院外の発表会へも積極的な参加 を促す。	院内研究発 表会2回開 催。合計8名 の発表。	院内研究発 表会2回開 催。合計7名 の発表。	院内発表会 を定期的 に開催し、成 果発表の場 を確保する。 また、機会が あれば、院 外へも積極 的な参加を 促す。	院内発表会 を定期的 に開催し、成 果発表の場 を確保する。 また、機会が あれば、院 外へも積極 的な参加を 促す。	院内発表会 を定期的 に開催し、成 果発表の場 を確保する。 また、機会が あれば、院 外へも積極 的な参加を 促す。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
院内研修会開催件数						
人権研修	(回)から(参加 者数)に変更	WEB 416	WEB 400	ハイブリッド 開催 400	ハイブリッド 開催 400	ハイブリッド 開催 400
接遇研修	(回)から(参加 者数)に変更	ハイブリッド 開催 375	ハイブリッド 開催 400	ハイブリッド 開催 400	ハイブリッド 開催 400	ハイブリッド 開催 400
交通安全研修	(回)から(参加 者数)に変更	中止	中止	400	400	400
院内・院外発表件数						
院内発表会	(件)	2	2	2	2	2
院外発表会	(件)	0	0	5	5	5
職員アンケート	(回)	2	2	2	2	2
職員提案	(数)	1	5	10	10	10
職員提案に改善した事項	(数)	1	2	2	2	2

No.25 病病・病診連携の強化

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
地域医療支援病院の要件維持 地域医療連携室だよりを発行し、新設科及び院内の診療科や検査、チーム医療等を広報することで紹介率の向上を目指す。	患者総合支援センターだより発行5回/年	患者総合支援センターだより発行5回/年	患者総合支援センターだより発行6回/年	患者総合支援センターだより発行6回/年	患者総合支援センターだより発行6回/年
パスによる連携強化 地域連携クリニカルパスによる病診連携の強化を図る。(脳、骨、がん)	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保	パス運用による病病連携の強化・患者確保
地域医療機関との連携 病院及び施設・事業所の訪問、事例検討や講演会等の開催を推進する。	事業所訪問16件・連携45件	病院・事業所訪問(訪問はWebで計画中)	病院・開業医・事業所訪問実施	病院・開業医・事業所訪問実施	病院・開業医・事業所訪問実施
入退院支援・調整の充実 入院前から、退院後まで院内外の多職種との連携を密に行うことで、患者家族が安心できる入退院支援や調整を目指す。	院内・外の連携充実。病院・事業所訪問20件	MSW2名増員・教育。院内・外の連携充実。病院・事業所訪問25件(WEB併用)	院内・外の連携充実。退院調整専従看護師の育成。病院・事業所訪問25件	院内・外の連携充実。退院調整専従看護師の育成。	院内・外の連携充実。
地域医療システムの充実 地域医療システム「北はりま絆ネット」の運用拡大を図る。オンラインによる多職種連携・情報共有を進める。	「北はりま絆ネット」公開171件 閲覧47件	「北はりま絆ネット」公開173件 閲覧55件	「北はりま絆ネット」公開175件 閲覧60件	「北はりま絆ネット」公開177件 閲覧65件	「北はりま絆ネット」公開179件 閲覧70件
在宅療養支援の充実 訪問看護を行う(特定の患者に訪問を実施し、地域のリソースと連携する)	訪問看護の準備開始(実施計画立案)	訪問看護の準備	訪問看護の準備	訪問看護実施	訪問看護実施

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
紹介率	(%)	66.4	72.2	70.0	70.0	70.0
逆紹介率	(%)	72.2	80.7	70.0	70.0	70.0
入退院支援加算1	(件)	2,992	3,008	2,500	2,600	2,600
介護支援連携指導料	(件)	299	245	250	250	250
退院時共同指導料2	(件)	74	78	75	76	77
地域連携診療計画加算(脳パス)	(件)	104	82	80	80	80
地域連携診療計画加算(骨パス)	(件)	77	82	70	70	70
がん治療連携計画策定料I(がんパス)	(件)	17	6	11	11	11
院外者を対象とした研修会、症例検討会、講演会の開催回数	(回)	14	12	15	15	15

No.26 地域医療を守る活動の支援

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
病院フェスタの開催 地域医療への理解促進を図り、病院の現状、医療の大切さを理解してもらおう。また、様々なイベントを通じ、親しまれる開かれた病院づくりを目指す。	コロナの影響により中止。	コロナの影響により中止。	コロナの影響により中止。		
ボランティアの受入れ ボランティア活動の円滑化及びボランティアの積極的な受け入れによって、患者サービスの充実・向上を図る。市民との交流とともに、地域に信頼される良質な医療の提供に努める。	適宜受け入れる。	適宜受け入れる。	適宜受け入れる。	適宜受け入れる。	適宜受け入れる。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
病院フェスタ来場者数	(人)	中止	中止	中止	2,500	2,500

No.27 情報発信の強化

取組内容	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
ホームページの充実 新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信、写真の充実。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。
広報紙の発行 見やすく、親しみやすい紙面づくりに努める。	広報にしわぎに定期掲載。	広報にしわぎに定期掲載。	広報にしわぎに定期掲載。	広報にしわぎに定期掲載。	広報にしわぎに定期掲載。
教室・セミナーの開催 誰もが気軽に参加できる教室やセミナーを企画し、開催する。	コロナの影響により中止。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。

数値目標	単位	3年度 (実績)	4年度 (実績)	5年度 (目標)	6年度	7年度
院内紙(ふれあい通信)	回	3	4	4	4	4
院外紙(ハートtoハート)	回	2	2	2	2	2
紀要	回	1	1	1	1	1
健康セミナー	回	中止	中止	11	11	11

